

## 普及現地情報



発信年月日：令和6年(2024年)3月29日

所属名：大津・南部農産普及課

番号：A23021

部門分類：160 果樹

発信者名：村井、山本、和田

## ナシ園でのグリーンでスマートな栽培体系への転換に向けた実証結果

琵琶湖もりやまフルーツランドグリーン転換協議会（以下、協議会という）は、2年間にわたってグリーンでスマートなナシ栽培に向けた実証を行ってきており、みどりのネットワーク全国会議において、当課が協議会を代表して事例発表を行いました。

守山市北部のもりやまフルーツランドのナシ園では、令和2年に策定した産地計画で、化学合成農薬の使用回数削減や作業時間を削減できる技術導入を掲げています。その実現に向け、協議会において、天敵製剤（ミヤコバンカー）を活用した殺虫剤の使用回数削減と、ロボット草刈機を活用した除草作業時間削減とを組み合わせたグリーンでスマートな栽培体系の技術実証を行ってきました。

実証の結果は目標に達することができませんでしたが、技術導入に必要な条件や天敵製剤使用時の要防除水準の設定などの課題を明らかにしました。この結果については、3月12日に開催された第1回みどり技術ネットワーク全国会議において、当課が協議会を代表し、発表しています。

今回、明らかになった課題が試験研究機関でさらなる知見の蓄積により解決できるめどがついた際には、再度産地に導入できるよう、情報収集等を継続していきます。

### 表 技術導入により目標とした効果と結果

項目	現状	目標	結果
ハダニ類に対する化学農薬の使用回数	3回	1回	2回
ハダニ類防除および下草除草作業時間	9h/10a	3h/10a	3.4h/10a



ナシ樹に設置した天敵製剤



ナシ園を除草するロボット草刈機



みどり会議での事例発表